

Photographic Society of Zone System

ゾーン・システム研究会会報 Web 公開版

発行日：2013.2

発行者：中島秀雄

事務局：畑文夫

編集部：荒井崇

NO.53

CONTENTS

- ・ 心理学者が書いた写真論を読んで
- ・ コールドライト取付けのための改造（引伸し機ラッキー450M-S）
- ・ サンディエゴ写真美術館館長デボラ・クロチコ氏レクチャー
— レクチャー報告～研究会ポートフォリオ寄贈の経緯 —
- ・ ゾーンシステム研究会第17回写真展全作品
- ・ ゾーンシステム研究会第17回写真展スナップ
- ・ ゾーンシステム研究会第17回写真展作品データ
- ・ ゾーンシステム研究会第17回写真展メディア掲載



心理学者が書いた写真論を読んで

中島秀雄

先頃、仕事の依頼で心理学を専門とする大学教授・高橋恵子さんを撮影した。高橋さんは、東京大学大学院博士課程を修了し教育博士号を取得、その後、発達心理学の第一人者として多くの大学で教鞭をとっている。

一時間のインタビューと撮影が終わりかけたころ、高橋さんから”私が書いた本です”、と一冊の本を渡された。表題は、”**第二の人生の心理学写真を撮る高齢者たちに学ぶ**”となっている興味深い本で、すぐにページをめくると驚いたことに私の師である細江英公さんの姿が載ったページが目にとまった。高橋さんによると、高齢者にとって第二の人生を豊かに送るためのエッセンスが写真活動に多く含まれていると言う。

帰宅後、早速、受け取った本に目を通した。表紙の帯には、”**アマチュア写真家として活動する市民グループの高齢者たちの姿から、豊かな人生を送る知恵と学びつづけるための秘訣をさぐります。人はいつまで、どのように発達するのかを追求。**”と書かれていた。

この本を書くにあたって高橋さんは、長野県上田市で活動している市民団体「写友まゆ」に三年間取材している。”まゆ”とは、かつて上田市は養蚕が盛んだったことから名づけられた。上田市は、長野県の中でもアマチュア写真家が多く活動している地域として足繁く通い、グループとの個人面談、集団面談、観察、心理測定などにより写真活動を分析してきたことが書かれている。

すでに日本は高齢化社会になり、65歳以上の人口割合が23%になっている。平均寿命が80歳を超えていることから、この先、豊かな人生を送るためにはなにをしたらいいのか、この本のスター

トになっている。かつての老人のイメージはどんなものだったのか、また、コロンビア大学の女学生が老人に変装して3年間生活したことから得られた社会環境・制度など分析している。そして、市民団体「写友まゆ」に参加する年配者たちがなぜ写真に活路を見出し、続けて行けるのか、ときにきつい批評やうまく撮れないことであきらめかけてもなおも続けて行けるのか。心理学者らしいグラフや表によって分析している。

本の内容すべてを現わすことは出来ないが、項目だけ拾い上げ、興味を高めるガイドとしたい。

第二の人生の生活と心理

老人像の変遷

社会参加と生活の質

上手に年をとるための理論

*

写真を撮る人たちの場合

写真活動と知的有能性

自分の写真のジャンルとテーマ

写真活動と人間関係

写真活動と生活の質

生涯教育の実践としての写真活動

他

写真は目を使うことで脳が刺激され、手、体を使って制作するもの。そして、完成した作品を人に見せることで他者との関係が生まれ、深められる。また、新たなテクノロジーを取り込むことで時代と共にいるという安心感につながっていると言える。そして、何よりも絵心を満たしてあげることが大きいと言えるでしょう。

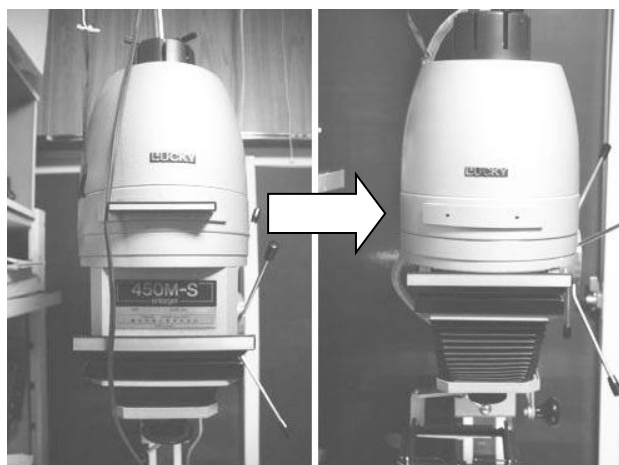
写真活動が心理学者によって分析された初めての本として共感するところ多く、一冊手元に置く価値ある本と言えます。



金子書房
文京区大塚 3-3-7
03-3941-0111
¥2,200 +税

コールドライト取付けのための改造 (引伸し機ラッキー450M-S)

藤田昇



かねてよりノンコンデンサータイプの引伸し機(コールドライト)による拡散光の下でのプリントの軟調性、ネガの粒状性やキズやホコリ等に効果が発揮されることは教わっていた。しかし、コールドライトの入手が困難で今日にまで至っていた。先般、研究会代表中島秀雄氏の指導を受けてその効果を実感できたのである。本腰を上げてコールドライトを探し回った。そして偶然にも東京の某材料商でそれを発見し購入することができたのである。

コールドライトは、ベセラーの伸ばし機には簡単に取り付くため、ベセラーの引伸し機が当然のように頭の中にはあったのだが、諸氏もご存じのとおりベセラーの購入には高額な出費が必要だ。なんとか所持している引伸し機「ラッキー450M-S」にコールドライトの取付を試みたいと改造を実行したのでご紹介したい。

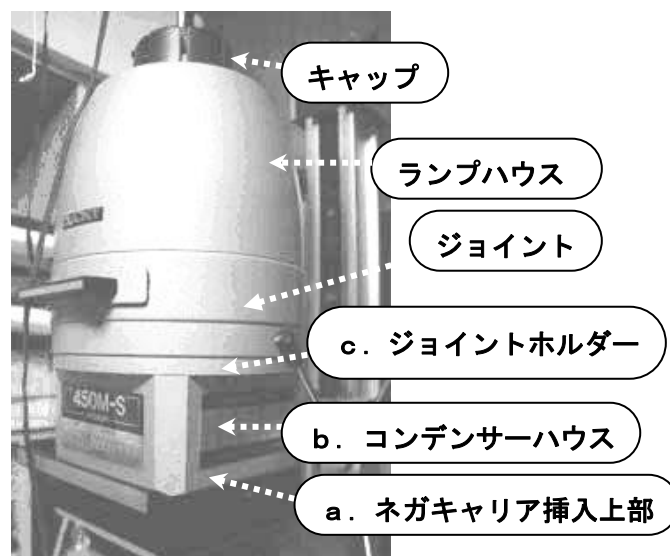
改造に先立ち中島代表に事例の有無について伺うと研究会のMさんが同機にコールドライト

を付けたものを使用しているとのことで早速、本人から写真を見せていただいた。

写真ではネガキャリアに直接コールドライトを載せるような形になっているためネガキャリアの挿入にはライト全体を持ち上げる仕掛けになっている。さほど苦にならないようではあるが、私には元来の挿入方法にこだわりたいという気持があった。何故かというところ450M-Sの姿をできるだけ残すことでその重さで支柱のバネがランプハウス本体を持ち上げようとする力を押さえバランスが保たれるため上下の移動がスムーズになると考えたからだ。そこで、改造の要点を以下のとおりとした。

- (1) ランプハウスを従来どおり残す。
- (2) ネガキャリア及びVGフィルターの挿入をそのまま活用する。

試しにコンデンサーレンズを外して、VGフィルターの上にコールドライトを置いてみると光源とネガとの距離があるために伸ばしが上手く行かないことがわかった。そこで写真で見せてもらったようにネガキャリア上にコールドライトを置いてみるとかなり良い感じになった。光源を



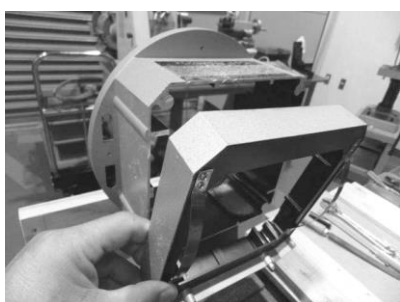
写真① 勝手に名前を・・・



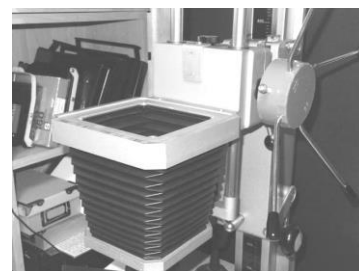
写真② 金ノコで切断丁寧に



写真④



写真③ 切断した挿入口上部



写真⑥ ネガキャリア挿入口下部の段が写真⑦を載せる障害に



写真⑦ 一部を切断した

できるだけネガの近くに置くことである。そんなわけでジョイントでのVGフィルターの挿入は断念することにし、VGフィルターは引伸ばしレンズの直下に工夫して取り付けることにした。

(後述) 構想が決まったところで作業開始だ。

作業は、まずコンデンサーを外し、四角いコンデンサーハウスを両側から3つに切断することから始まった。(写真②③) 幸い材料がアルミダイキャストで薄いため「金のこ(弓のこ)」で簡単に切断できる。しかし、安定した作業台と挟むための万力が必要であり、直接挟まず木材板で挟むことでキズが付いたりアルミが曲がったりすること防止できる。力を入れずに少しずつ切断していくと「ネガキャリア挿入口上部(写真①a)」

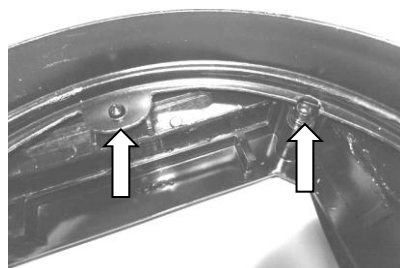
と「コンデンサーハウス(写真①b)」、「ジョイントホルダー(写真①c)」の3つに切断できる。写真④のコンデンサーハウスは不要のため処分。

切断したら挿入口上部(a)とジョイントホルダー(c)を直接接続する。

切断部を組み合わせたときにすき間がないようにヤスリで平らに削り、光源モレ防止のために強力接着剤(黒色)を塗り更にねじ立てシビスで(写真⑤)のように2段階で固定した。

また、コールドランプがネガキャリア挿入口上部にしっかり入るようにダイキャストのリブを削り落とさないと直径165mmのコールドランプが入らないので注意が必要である。組み上がったジョイントホルダーを本体に付けようとしたとき問題点が発生したのである。

支柱を上下するホルダーとネガキャリア挿入口下部が写真⑥のようになっており、四角いコンデンサーハウス部分を取り付けてあった段の部分が邪魔をして組み合わせたジョイントホルダーが入らないのだ。そこでジョイントとジョイントホルダーの一部を(写真⑦)のように金ノコで切



写真⑤ 接続した状態

「リブ」とは
アルミ補強の
ための突起



写真⑧ 傾きを調整して固定

断した。薄板で軟らかい材料の金ノコ切断ではバリが多く出るためケガをしないように切り口をヤスリで削っておく必要がある。

完成品にはネガキャリア挿入口上部を固定するアングル金具（挿入口下部安定のための）を新しく作り取付して傾きを調整のうえ固定した。

テストの結果、ネガキャリアの挿入・引出は問題無くスムーズで大成功であった。

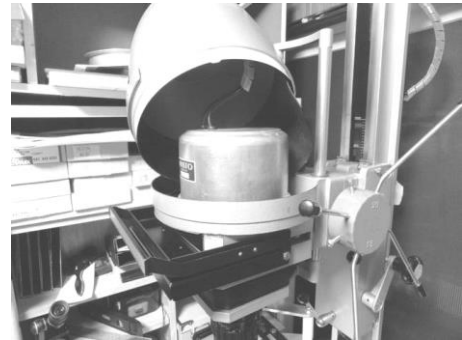
ここで再度切断の際の注意点を述べておきたい。金ノコの歯数は細かいものを使用する。特に薄物切断の場合はなるべく歯数の多いノコ刃を使うことである。（1インチあたり32歯）また、材料は軟らかく変形しやすく折れやすいので力



写真⑨ 散光フィルターを取付け



写真⑩ 耐熱ゴムの自家製シール



写真⑪ コールドライトの取付け

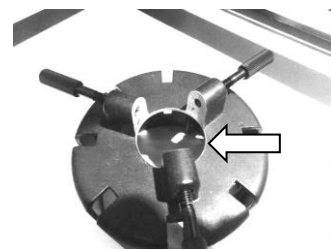
を入れすぎないように静かに切断することである。材料を挟む万力や作業台は安定したものであれば問題ない。市販の木工用作業台（固定台がついているもの）も便利だ。

写真⑧のように本体に取り付けた後、白い丸形の散光フィルター（写真⑨）をはめ込みその上にコールドライトを載せランプハウスをかぶせれば本体は完成する。（写真⑪）

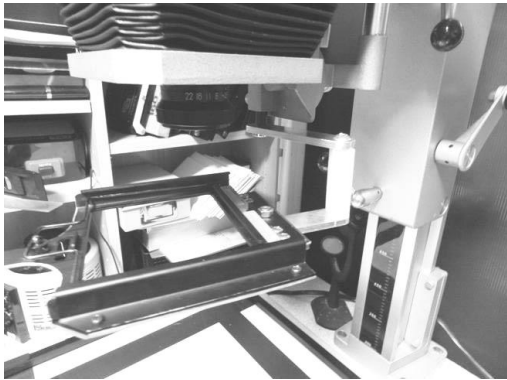
私はコールドライトの下部に耐熱ゴムのシールドをかぶせ光源漏れに配慮した。（写真⑩）

続いてランプハウスの電球ソケットを取り外し、コールドライトの2本（ライト・ヒーター）のケーブルがランプハウスから出るよう既製の黒いキャップ（写真⑫）の穴をドリルで大きく直し2本のケーブルを同時に通して本体と改造を完了した。

文頭の写真のようにコンデンサー部分が少し縮んだものの前の姿を留めている形となっている。支柱を上下する本体のバネのバランスもちょうど良く跳ね上がることはない。これで本体部分は完了である。



写真⑫ キャップの加工



写真⑬ リンク機構でスムーズに

さて、VGフィルターの取付ガイドだがラッキー450M-Sには、レンズ下に未露光用の丸形の赤いフィルターが附属している。そのフィルター枠を活かして使用方法もあるが、ランプハウスにいままで付いていたフィルター枠を軽量に加工改造したうえで使用したいと考えた。フィルター枠に付いているねじ穴を利用して取り付けの場合自由度が無くなるため軽量で自在にリンクできるよう工夫したものが写真⑬である。



写真⑭ 改造完成品

仕事柄、大型工作機械を使うことができたが、少しものづくりの知識さえあれば身近な手工具で簡単に改造が可能である。部品細部の名称が不明なため勝手に名前を付けた部分もありわかりにくいところはお許し願いたい。

まだまだ良いアイデアはあると思うがものづくりの楽しいひとときを過ごすことができた。

添付の写真を参考にして挑戦してみてもいいでしょうか。

【追記】

コンデンサーレンズはコールドランプよりも遙かに重かった。計測してみるとコンデンサーレンズは3.6kgでコールドランプは2.0kgであった。1.6kg軽くなった分、クランプをゆるめると本体が持ち上がる。コールドランプだけでは支柱のクランプを緩めたときに急に上昇するので危険である。バネはコンデンサーレンズの重量を考慮して本体上下のスムーズな移動を保っている。そこで自宅にあった大きな釣りのおもり1.6kg分をランプハウスの中に取り付けて上下のバランスを調整してみた。今度はバランスが良く取れて上下が楽になった。あとはプリント検証だけである。

この原稿が会報に掲載される頃にはプリントの新たな課題が発生しているかも知れない。

サンディエゴ写真美術館館長 デボラ・クロチコ氏レクチャー

— レクチャー報告～研究会ポートフォリオ寄贈の経緯 —

荒井崇

2012年7月21日(土)、ギャラリーコスモスにて、サンディエゴ写真美術館館長デボラ・クロチコ氏のレクチャーが行われた。

デボラ・クロチコ氏は、アンセル・アダムスが設立したフレンズ・オブ・フォトグラフィー(サンフランシスコ)の館長も勤めた経験があり、アンセル・アダムスに造詣の深い方である。

また1999年に川崎ミュージアムで行われたアンセル・アダムス展においても来日し、関連イベントにて講演を行っている。中島代表と筆者は当時のイベントに参加しており、研究会会報に記事を掲載した経緯がある。(会報バックナンバーNO.14号、NO.16号)

詳細は後述するが、本レクチャーの翌日、中島代表からデボラ・クロチコ氏に研究会のポートフォリオを寄贈することができた。研究会にとって大変幸運な出会いであったのではないだろうか。

今回の来日目的は、東川写真フェスティバルへの招待であったが、ギャラリーコスモスオーナー新山洋一さんの計らいで、今回のレクチャーが開催されることになった。

本レクチャーの内容は2つ。1つは「サンディエゴ写真美術館の紹介」2つ目は「ポートフォリオレビューのプレゼンテーション術」である。

1. サンディエゴ写真美術館の紹介

アメリカのサンディエゴには27個の美術館や博物館が立ち並ぶミュージアム群があり、サンデ

イエゴ写真美術館はその一つ。

「美術館の壁を取り除き、写真をどうやって見るかを教育して写真を身近に感じてもらうこと」を理念としている。その活動は以下のとおり。

・写真作品・書籍のストック

7000点の写真作品と2万点の写真関連書籍をストックしており、写真作品は全てデジタル化されている。

・写真に関するレクチャー、アーティストトークの開催

マイケル・アダムス(アンセル・アダムスの御子息)によるレクチャー映像を流しながら説明。時には人権問題にまで踏み込んだテーマを扱うこともあるという。

・学校との連携

子供達に美術館へ見学に来てもらったり、逆にスタッフを学校に派遣したりして写真に関する教育を行っている。

・ワークショップの開催

子供からシニアまで幅広い世代に、写真に対する関心を持ってもらうのが目的。写真をどうやって見るかを教育したり、写真現像や古典技法を学んでもらったりする。

2. ポートフォリオレビューの

プレゼンテーション術

ポートフォリオレビューとは、作者が自分の作品群をプレゼンテーションする場である。日本で行われる機会は少ないが、海外では盛んに行われている。

ポートフォリオレビューは、美術館やギャラリー主催の他、ポートフォリオレビュー専門のイベントとして行われることもあり、有料の場合が多い。定期的に行われているものとしては例えば、

サンタフェ美術館、ヒューストン美術館、サンフランシスコ美術館、ポートランド美術館、パリフォトなどがある。

参加するメリットとしては、キュレーター、編集者、ギャラリーオーナー、作家等写真関係者など多くの人に作品を見てもらえることである。

今回のレクチャーでは、ポートフォリオレビューに臨む際のポイントを解説した後、ポートフォリオレビューを実際に行ってみせてくれた。

[ポートフォリオレビューに臨む際のポイント]

(1) 目的を明確にする

どのような目的でレビューするのかを明確に伝えることが重要。例えば、

- ・作品に関するアドバイスをもらいスキルを伸ばしたい。
- ・ギャラリーで作品を売りたい。
- ・写真集を出版して売りたい。
- ・美術館等の特別展に出品してもらいたい。

(最初から美術館での個展を目指すのではなく、まずはグループ展に入れてもらうのが早道)

(2) 参加するポートフォリオレビューについて事前に下調べする

参加するポートフォリオレビューについて、それがどのようなものか事前にインターネット等で調べておくと良い。例えば、

- ・主催している美術館・ギャラリー・出版社は自分の目的に合うか。

過去にどのようなテーマで作品展を主催しているか。など。

- ・締め切り日程等を調べる。

特定期間のみ募集も多い。美術館の特別展は、資金を集めるため、かなり前から展示候補を検討する。情報を収集して早めに応募すること。

(3) 作品は点数を絞って持ち込む

レビューアは限られた時間で全体像をつかむことを考えるので、第1印象が重要。点数が多すぎると不利。自分が自信を持っている作品を15~20点くらいに絞って見せたほうが良い。ただし、レビューアに気に入られなかったときのため、保険で別なセットも用意しておくベター。

(4) 作品は1つのBOXにバラで入れて持ち込む

基本的には全作品を広げて見せるので、作品を綴じてしまっただけではいけない。また、クリアファイルに入れて出す方法もあるが、出すのに時間がかかるのでお勧めできない。

(5) 展示サイズを明確にしておく

作品の展示サイズを聞かれることがあるので、当日見せるプリントが展示サイズなのか、縮小なのかを明確にしておいたほうが良い。また、展示サイズ1枚のみ、他は縮小プリントを持参する手もある。なお、美術館等の特別グループ展参加目的であれば、希望展示スペース、展示点数なども考えておく必要有。

(6) レビューアに自分の情報を渡せるようにしておく

作品の画像データを入れたCD、レジメ、ビジネスカード、過去の展覧会履歴等、自分の情報を準備し、レビューアに渡せるようにしておくが良い。(他の作家との交流・情報交換にも役立つ)

(7) 写真集出版目的の場合は、本の仕様を考えておく

写真集出版目的の場合は、本の内容に沿った順にプリントを準備しておく。また、ページ数、本のサイズ、本制作のコストも想定しておくこと。

(8) その他注意事項

・本当にレビューする準備ができているか自分に問いかけてみることも重要。

・レビューアに作品を持ち帰ってもらう場合は、戻ってくることを期待しないこと。

- ・パソコン画像のみでのプレゼンを行わないこと。
(プリントのクオリティーも重要なファクターなので)
- ・作品保護のためのスリーブに入れてある場合はスリーブから出して見せること。

[ポートフォリオレビュー実演]

上記説明後、実際にポートフォリオレビューの実演を行って見せてくれた。「今回はやさしくやりますよ。」とクロチコさん。(笑) まずプレゼンターの気持ちを和らげる。

プレゼンテーションを行うのは、あらかじめコスモスオーナー新山さんが依頼しておいた作者 2 人。今回はデモンストレーションということもあり、基本的に肯定的なアドバイスがメインで、作品の欠点については殆ど言及しなかった。恐らく特別展選定などのレビューであれば、選定できない理由も明確にしてアドバイスをするのではないだろうか。

(1) 若い女性のカラー作品

まず 1 人目の作者は若い女性。水中のヌード作品シリーズと、何気ないシーンを撮影した作品シリーズで、いずれもカラー作品である。一気に作品を机に広げてまず全体を見渡す。まず水中のヌード作品を見て一言、「プラスチックテイストのカラー作品ですね。水が要素なので、展示はフレーム枠を無くし、色の変化を利用して流れるような展示が良いですね。」続いて作者、「展示は枠無アクリル加工を考えています。」作者の展示意図を汲み取って的確にアドバイスしていく。「作品によって異なるサイズで展示し、リズムを作るような展示も良いかもしれません。異なるサイズが句読点のような効果をもたらすこともありま

すよ。また、見る人によって異なるストーリーが描かれるような展示や、音・光の効果を併用する展示もトライしてみたいはいかがでしょうか。」すると、「実は作品展示の際、会場に香りを漂わせることを考えていました。」と作者。

もう一方の何気ないシーンを撮影したシリーズも、「シネマ的で音楽が流れるようです。」と感想を述べて、同様な作者とのやり取りが行われた。

(2) 年配の男性によるピンホールカラー作品

もう一人は、アメリカ在住が長かった(24 年間在住)年配の作者。英語が話せるので、通訳無しでクロチコさんと会話。4x5 ピンホールカメラとポジフィルムを使った海景の作品。海は安心感をもたらすので、海をテーマにしているという。

「それぞれ似たような海景の作品群ですが、砂浜の色の違いなど微妙に異なる要素があるところがむしろおもしろいですね。詩を読んでいるようなイメージです。ただ、並べる順番が非常に重要です。順番の違いにより異なったイメージになります。明るい/暗い/エネルギッシュ/落ち着いた、など、どのような感情を引き出したいかを考え、スペースやグループ分けも含めてレイアウトする必要があります。」とアドバイス。作者は真剣に聞き入っていた。また作者は、過去に個展を開催した経験があるとのこと。「展示経験があるのであれば、過去の展示風景をパソコンなどで見せることもぜひ実践して欲しいです。」とクロチコさん。

以上、作者 2 人のポートフォリオレビューが行われたが、デボラさんのコメントは全てにおいて的確でわかりやすかったというのが印象である。

今回のデモンストレーションに選ばれた作者 2 人の作品はいずれも完成度が高く、今回のレクチ

ヤーには最適な作品であった。しかしながら2人の作品どちらも、類似作品をどこかで見たことがあるように感じた。本番のレビューを考えると、もう少し他の作家と違う何かが問われるのではないだろうか。

3. 質疑応答

■古典技法の作品は、今後価値が上がる可能性があるか。

どの技法が価値が上がるかではなく、どの技法が自分に合うかを考えたほうが良い。

画家であれば、水彩/油彩/スプレーどの技法を使うかの選択と同じこと。15~20年くらい前にデジタルプリントを見たとき、特に違和感は無かった。(デジタルだから価値が無いということは無い。)

■展覧会へ出したい作品は、どのような作品か。

本美術館には大変多くのコレクションがあるが、展示するものはその中の僅かである。どの作品を展示するかは、写真が時代と共にどのように変わっているのかに着目して展示作品を決めている。

■日本の写真をどう思うか。

日本の古い写真(1920年~1940年)に関しては、作品に込められたすごいエネルギーを感じている。ただ日本の現代写真に関しては、多く見る機会が少ないため、残念ながらあまりコメントができない。今回来日したので、写真集をたくさん見ながら現在情報を収集。なお、日本では写真コレクションが浸透して無いようであるが、海外においては、日本人写真家作品が多くコレクションされているという。

■サンディエゴ美術館コレクションの中に日本人写真家作品はあるか。

19世紀の日本の写真や、細江英公氏(日本人写真家では最も有名)の作品がある。今後、日本を含めた環太平洋地域の写真もコレクションしていく予定。

■個人的に好きな写真家は誰。

「母に対して、兄弟の誰が好きか?と問われているようなものですね。」(笑)とクロチコ氏。いろいろな現代写真家に興味を持っていると共に、写真の歴史についても興味がある。現代写真に理解を深めるためにも歴史は重要であると考えている。

■美術館とマーケットとの関係は? 美術館に展示されたものは価格が上がるか?

美術館での特別展展示によりアーティストの知名度や価値は上がるが、価格との直接的な関連は無い。ただ、美術館がコレクションしようとするすると価格が吊り上げられることはある。

なお、美術館がコレクターを集め、世界各地のアーティストを紹介する取り組みも行っている。

4. レクチャーの感想

今回、デボラ・クロチコ氏のレクチャーを聞いて、「アメリカの写真界は、有能な写真家を掘り起こすだけではなく、作家が作品や写真集を販売して生計を立てらるような仕組みができていく。」ということ強く感じた。ポートフォリオレビューとは単にその仕組みの1つであり、その他、日本の写真界が学ばねばならないことは数多あるのではないだろうか。

5. レクチャー後日談

・・・研究会ポートフォリオの寄贈

レクチャー終了後、筆者は、コスモスギャラリー

ーオーナー新山洋一さんに、デボラ・クロチコ氏を掲載した研究会会報バックナンバー（冒頭に紹介した会報）を渡し、レクチャー招待のお礼を申し上げた。すると新山さんは、「この会報をクロチコさんに見せたらどうですか。」と言って通訳の方を付けてくれた。早速クロチコさんに会報のバックナンバーを見せて記事内容を説明するとクロチコさんは大変喜ばれ、「ぜひこのコピーを持ち帰りたい。」とおっしゃった。その場で会報コピーはクロチコさんに手渡し、新山さんには後日コピーを送付することにした。

翌日、コスモスギャラリーにてデボラ・クロチコ氏の歓迎パーティーが開かれ、中島代表も招待されることになっていた。実はその数日前、中島代表から筆者の携帯にメールがあった。「パーティーに研究会のポートフォリオを持ち込む。」との内容。パーティーに招待されている中島代表は、サンディエゴ写真美術館への寄贈をトライするのだと認識した。そしてパーティー当日、中島代表からメール。「ポートフォリオ寄贈成功。日本で始めて美しいプリントを見た。と言っていた。」無事に寄贈できたようであった。しかもうれしいコメント付。まさかアダムスに精通するキュレーターから「美しいプリント」という言葉が出るなど筆者は考えもしなかった。日本では確かにファインプリント作品は肩身が狭い。しかし私達は、もっと自分達の作品に自信を持って良いのではないだろうか。

後日中島代表に聞いたところ、ポートフォリオだけでなく研究会の資料も、用意できる範囲でデボラ・クロチコ氏へ渡したという。今回の中島代表及びゾーンシステム研究会とデボラ・クロチコ氏の出会いが、将来何らかの形で花開くことを期待したい。

ゾーンシステム研究会第17回写真展 [光への探求] 全作品

アイデムフォトギャラリー「シリウス」 [2012年10月18日(木)～10月24日(水)]



厳冬の湖

中島 秀雄



氷の造型

中島 秀雄



ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者

中島 秀雄



キスタイル・スペイン

松本 ひさ子



高原逍遙

酒巻 澄江



一等航空整備士

中島 秀雄



旧市街・スペイン

松本 ひさ子



語り部

酒巻 澄江



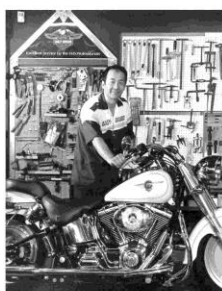
still as still

北野 龍一



静流

藤田 昇



Harley Engineer

藤田 昇



大工

北野 龍一



窓辺の硝子テーブル
浜野 次郎



Ranch
荒井 崇



海景
葛城 忠彦



マッシュルーム
浜野 次郎



橋脚
荒井 崇



流木
葛城 忠彦



終りの時
橋田 功



Requiem
金子 正道



Urban Trees, Shibuya
畑 文夫



倒木
橋田 功



朝霧
金子 正道



Factory Manager,
Shimomaruko
畑 文夫



Three Sea Cows

臼井 健司



white withered tree

長谷川 登



hand-made

長谷川 登



画家F氏

臼井 健司



shore, dawn

古谷津 純一



磯浜灯柱

小菅 秀一



cafe uzna omom 店長 Kさん
倉又 茂



rocks, dusk

古谷津 純一



Four pillars

小菅 秀一



旧海軍軍需部長浦倉庫
倉又 茂



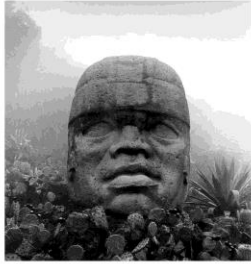
Lighthouse

皆川 賢



立山垂水

皆川 賢



Olmeca Head

川北 弘



Shaper

越後 久雄



夏野菜収穫

穴澤 昭



Boone & Wright Store, Bodie, Calif., 2005
(ポートフォリオ)

中島 秀雄



静寂の中の激流
(ポートフォリオ)

石井 政吉



レジャー
(ポートフォリオ)

岡崎 克之



凍てるモンステラ
(ポートフォリオ)

鈴木 武志

ゾーンシステム研究会第17回写真展スナップ



ゾーンシステム研究会 第17回写真展 ファインプリント〜光への探求 2012年10月18日〜10月24日 アイテムフォトギャラリー「シリウス」

タイトル	作者	撮影地	撮影年月	フィルム	フォーマット	レンズ	絞り	スピード	キーゾーン	シャドー	ハイライト	印刷紙
1 rocks, dusk	古谷津 純一	千葉県	2011年9月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10	210mm	f45	60秒	白い岩 (VII)	岩のシャドード部 (III)	白い岩 (VII)	REBRANT V G2
2 shore, dawn	古谷津 純一	茨城県	2012年6月	ILFORD HP5 Plus	8x10	210mm	f64	120秒	岩のシャドード部 (III)	岩のシャドード部 (III)	白い波 (VII-VIII)	REBRANT V G2
3 海景	葛城 忠彦	千葉県 御宿	2011年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	210mm	f45	1/2秒	中央岩 (V)			SEAGULL VC-FB II
4 磯浜灯柱	小菅 秀一	茨城県 大洗町	2012年6月	KODAK TMY (T-MAX 100)	4x5	72mm	f32 1/2	3分	灯台 (VII)	砂浜 (III)	手前の波 (VII)	Kentmere VC Glossy
5 Three Sea Cows	白井 健司	茨城県 高萩市	2011年11月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	135mm	f45 2/3	1/8秒	岩ハイライト部 (VII)	岩陰 (III)	岩上部 (VII)	SEAGULL VC-FB III
6 流木	葛城 忠彦	千葉県 御宿	2011年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	150mm	f32	1/4秒	流木右側 (VI)			SEAGULL VC-FB II
7 終りの時	橋田 功	長野県 八千穂高原	2010年12月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10	311mm	f128	1/2秒	上部露柱 (VII)	枯葉 (III)	白樺中央 (VII)	SEAGULL VC-FB II
8 Reitem	金子 正道	栃木県	2012年9月	ILFORD HP5 Plus	4x10	120mm	f45 1/2	1/60秒	水面 (V)	左右山 (III)	空 (VII)	REBRANT V G2
9 立山垂水	皆川 賢	富山県 中新川郡立山町芦峯寺	2012年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	450mm	f11	1/125秒	滝身 (VII)	岩 (IV-III)	滝身 (VII)	SEAGULL VC-FB II
10 静流	藤田 昇	秋田県	2012年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	150mm	f64	8秒	水面 (V)	苔石 (III)	水流・岩肌 (VII)	REBRANT V G2
11 氷の造型	中島 秀雄	山梨県 八ヶ岳	2012年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	210mm	f45	2秒	岩 (II-III)	氷 (V-VII)	氷 (V-VII)	SEAGULL VC-FB II
12 倒木	橋田 功	長野県 木崎湖	2011年1月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10	476mm	f64	1/2秒	水面 (IV)	陰 (II)	雪 (VII)	SEAGULL VC-FB II
13 still as still	北野 龍一	福島県 葛巻峠	2011年12月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	120mm	f45 2/3	1/8秒	水面 (IV)	中央の木の幹 (III)	雪 (VII)	REBRANT V G2
14 厳冬の湖	中島 秀雄	山梨県 八ヶ岳	2012年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5	210mm	f45	2秒	氷 (V)	山 (II)	雪 (VII)	ILFORD MG IV FB 1K
15 高原越過	酒巻 滄江	長野県 八千穂高原	2011年10月	FUJI NEOPAN 100 AGROS	6x12	150mm	f22 1/2	1/2秒	白樺 (VI-VII)		白樺 (VI-VII)	ILFORD MG IV FB 1K
16 white withered tree	長谷川 登	静岡県 静岡県	2012年6月	ILFORD DELTA (100)	4x5	180mm	f45 1/3	2秒	最白の幹 (VII)	火山礫 (IV)	最白の幹 (VII)	ADOX MOC3110 premium
17 語り部	酒巻 滄江	奈良県 奈良公園	2011年11月	FUJI NEOPAN 100 AGROS	4x5	180mm	f22 2/3	1秒	樹の幹 (V-VI)	幹の影 (III-IV)	芝生 (VII)	ADOX MOC3110 premium
18 Shaber	越後 久雄	神奈川県 藤沢市	2012年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6	50mm	f22	2秒	シューズ中の白いフロード (VII)	背景の壁、天井の暗い部分 (III)	シューズ中の白いフロード (VII)	SEAGULL VC-FB III
19 大工	北野 龍一	千葉県 四街道市	2012年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10	240mm	f32 2/3	1/2秒	顔 (VI-VII)	髪の毛 (III)	シャツ (VII)	REBRANT V G2
20 hand-made	長谷川 登	東京都	2012年6月	ILFORD DELTA (100)	4x5	180mm	f8 2/3	1/4秒	顔 (VI)	胸 (III)	顔 (VII)	ADOX MOC3110 premium
21 Ranch	荒井 崇	長野県 原村	1997年3月	KODAK 320TAP (TRI-X)	4x5	150mm	f32	1/15秒	牧草ロール (VII-VIII)	小屋の影 (III)	牧草ロール (VII-VIII)	REBRANT V G2

22	Four pillars	小菅 秀一	茨城県 つくば市	2012年8月	KODAK TMK (T-MAX 100)	4.5	72mm	f45	1秒	白い円柱 (Ⅳ)	円柱の影 (Ⅲ)	白い円柱 (Ⅳ)	Kentmere VC Glossy
23	画家F氏	白井 健司	茨城県 土浦市	2012年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6.6	80mm	f11	1/15秒	顔ハイライト部 (Ⅴ)	シャツ (Ⅳ)	シャツ (Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
24	一等航空整備士	中島 秀雄	東京都 調布飛行場	2012年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4.5	150mm	f11 2/3	1/5秒	シャツ (Ⅴ)、顔 (Ⅳ)	整備マニキュアル (Ⅴ-Ⅵ)	整備マニキュアル (Ⅴ-Ⅵ)	ILFORD MG IV FB ⅡK
25	テキスタイル・スベイン	松本 ひさ子	スベイン ロンダ	2012年7月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6.6	80mm	f22	1/80秒	布地 (Ⅳ-V)	壁面影 (Ⅲ)	光沢部分 (Ⅳ)	REBRANT V G2
26	Olmeca Head	川北 弘	静岡県 静岡	2010年10月	KODAK TMK (T-MAX 100)	6.6	50mm	f32	1/15秒	顔 (Ⅴ)	サボテン (Ⅱ)	空 (Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
27	朝露	金子 正道	栃木県	2012年7月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4.5	65mm	f32 1/2	2秒	椀縁板 (Ⅴ)	椀縁影 (Ⅱ-Ⅲ)	水面 (Ⅳ)	Kentmere VC Glossy
28	Urban Trees, Shibuya	畑 文夫	東京都	2012年4月	ILFORD HP5 Plus	4.5	210mm	f64	1/2秒		樹の幹 (中央下) (Ⅱ)	空 (ガラス窓) (Ⅳ)	REBRANT V G2
29	Harley Engineer	藤田 昇	新潟県	2012年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4.5	210mm	f22	1秒	顔 (Ⅴ-Ⅵ)	シート (Ⅲ)	油タンク (Ⅳ)	REBRANT V G2
30	Factory Manager, Shinomaki	畑 文夫	東京都	2012年2月	ILFORD HP5 Plus	4.5	210mm	f11	1/2秒	顔 (顔) (Ⅳ)			REBRANT V G2
31	マッシュルーム	浜野 次郎	東京都 自宅	2012年7月	KODAK TMK (T-MAX 100)	5.7	180mm	f32 1/3	15秒	マッシュルームの中間トーン (Ⅴ-Ⅵ)	背景 (Ⅱ-Ⅲ)	マッシュルームの明部 (Ⅳ-Ⅴ)	SEAGULL VC-FBⅡ
32	窓辺の椅子テーブル	浜野 次郎	東京都 自宅	2010年7月	KODAK 320TYP (TRI-X)	4.5	210mm	f32	3秒	植物の葉 (Ⅳ-V)	葉の暗部 (Ⅱ-Ⅲ)	椅子テーブルの明部 (Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
33	夏野菜収穫	穴澤 昭	神奈川県 足柄上郡	2012年8月	KODAK TMK (T-MAX 100)	6.6	80mm	f16 2/3	1秒	唇 (Ⅳ)	穂え込み暗部 (Ⅱ)	着衣の白地 (Ⅳ)	REBRANT V G2
34	cafe uzna onom 店長 Kさん	倉又 茂	東京都 表参道 (原宿)	2012年8月	FUJI NEOPAN 100 ACROS	4.5	150mm	f32	1秒	顔肌 (Ⅳ)	手前カウンター (Ⅲ)	左電気釜 (Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
35	ヴィオラ・ダ・ガソラ妻者	中島 秀雄	東京都 世田谷区 桑名自宅	2011年12月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4.5	150mm	f16	1/5秒	ヴィオラ・ダ・ガソラ (Ⅴ)	猫 (Ⅱ)	顔 (Ⅳ-Ⅴ)	REBRANT V G2
36	橋脚	荒井 崇	宮城県 高千穂線	1989年8月	KODAK 320TYP (TRI-X)	4.5	150mm	f45	2秒	橋脚の白色部 (Ⅳ)	森の影 (Ⅳ)	橋脚の白色部 (Ⅴ)	REBRANT V G2
37	旧市街・スベイン	松本 ひさ子	スベイン ロンダ	2012年7月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6.6	80mm	f11 1/2	1/80秒	反折してゐる窓 (Ⅳ)	ドア板 (Ⅱ)	扉の側面 (Ⅳ)	REBRANT V G2
38	旧海軍重部部長補倉庫	倉又 茂	神奈川県 横須賀 田浦海岸	2012年8月	FUJI NEOPAN 100 ACROS	4.5	90mm	f64	1/8秒	正面壁 (Ⅴ)	窓 (Ⅲ)	手前砂地 (Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
39	Lighthouse	皆川 賢	石川県 珠洲市徳重町	2012年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4.5	80mm	f45	1/80秒	白い壁 (Ⅳ)	樹木 (Ⅲ-Ⅳ)	白い壁 (Ⅳ)	SEAGULL VC-FBⅡ
(ポートフォリオより)													
40	凍てるエンステラ	鈴木武志	神奈川県 横浜	2008年8月	FUJI NEOPAN 100 ACROS	6.6	210mm	f45	35秒	葉 (Ⅱ)	氷の左部分 (Ⅲ)	氷の明部 (Ⅳ)	REBRANT V G2
41	静寂の中の激流	石井 政吉	カリフォルニア ヨセミテ	2006年8月	FUJI NEOPAN 100 ACROS	4.5	150mm	f64	4秒	滝「暗」(Ⅳ)	岩「暗」(Ⅲ)	滝「明」(Ⅳ)	REBRANT V G2
42	Bone & Light Store, Bodie, Calif., 2005	中島 秀雄	カリフォルニア ボディ	2002年8月	POLAROID TYPE 55	4.5	125mm	f45	6秒	手前の樽 (Ⅴ)	奥の机 (Ⅲ)	白い箱 (Ⅳ)	SEAGULL OF-2
43	レジャー	岡崎克之	千葉県 稲毛海岸	2008年8月	KODAK 320TYP (TRI-X)	4.5	210mm	f22	1/30秒	人物・ボード・空 (Ⅳ-V)	海面 (Ⅳ-Ⅴ)	海面 (Ⅳ-Ⅴ)	SEAGULL VC-FBⅡ

ゾーンシステム研究会第17回写真展メディア掲載

ゾーンシステム研究会 第17回写真展【光への探求】

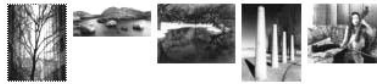
開催日：2012年10月18日～10月24日

開催地：アイデムフォトギャラリー「シリウス」

大型カメラの特長は、圧倒的な描写力とその創造的なプロセスにあり、被写体の質感を繊細にプリント再現する技法としてゾーンシステムを活用して来ました。今回、国内外の自然風景や都市風景、偶然の出会い、静物写真、及び人物写真を展示いたします。



© Fumio Hata, Urban Trees, 2012 植立夫



ジャンル

自然 / 人物 / 静物 / 風景

▼開催概要

開催時間	10:00～18:00 最終日10月24日は15:00まで
観覧料	無料
休館日	日曜日
展示関連イベント	会場にて「ロック音楽」ミニ演奏会を開催いたします。 2012年10月18日 17:00～18:00
お問い合わせ先	TEL / 03-3350-1211 FAX / 03-3350-1240
URL(PC)	http://www.photo-sirius.net/

IMA ONLINE (写真集、写真展の総合検索サイト) [<http://imaonline.jp/>] 掲載

ゾーンシステム研究会 「第17回写真展光への探求」

- 10月18日(木)～24日(水)
- 東京・アイデムフォトギャラリーシリウス



写真 / 岡崎克之

大型カメラによるモノクローム銀塩写真に取り組み、その美しさを追求してきた研究会。今回は、会員それぞれのテーマに基づいて制作されたモノクロ作品およそ40点を展示。

日本カメラ (2012年10月号) 掲載

◆ゾーンシステム研究会
「光への探求」 18～24日、
新宿御苑前駅・アイデムフォト
ギャラリー「シリウス」。
大型カメラによるモノクロ写
真制作に取り組み、その美し
さを追求してきた会員らの写
真＝写真は北野龍一さん撮影
＝を発表。約40点。日曜休。
03・3350・1211。



読売新聞夕刊 (2012年10月9日) 掲載

[表紙の作品]

- 作者：小菅秀一
- タイトル：Four pillars
- フィルム：KODAK T-MAX100 4x5
- レンズ：210mm
- 絞り：f45
- シャッター：1秒
- キーゾーン：白い円柱 (VIII)
- ハイライト：白い円柱 (VIII)
- シャドー：円柱の影 (III)
- 印画紙：Kentmere VC Glossy